



よろい
甲を着た古墳人だより



金井東裏遺跡の古墳人はどこから来たのか

金井東裏遺跡では、古墳時代の人骨が4体発見されています。そのうち「乳児の古墳人」(2号人骨)は頭骨の一部が残っていただけでしたが、他の3体の人骨については、状態が良好であったため科学的な分析などをおこないました。

いくつかおこなった分析の一つに、出身地を調べることができる方法があります。Sr(ストロンチウム)同位体比分析やCa/Sr(カルシウム/ストロンチウム)比分析という方法で、今回は古墳人たちの歯を用いておこないました。その結果、「甲を着た古墳人」(1号人骨)と「首飾りの古墳人」(3号人骨)は、群馬県より西の地域出身の可能性があり、その一方で「幼児の古墳人」(4号人骨)は群馬県内で生まれ育った可能性が高いことがわかりました。



「甲を着た古墳人」(1号人骨)



「乳児の古墳人」(2号人骨)



「首飾りの古墳人」(3号人骨)



「幼児の古墳人」(4号人骨)

■ どのようにして出身地がわかるのか

岩石には地域特有の微量元素が含まれており、その一つにSr（ストロンチウム）があります。その土地の水や食べ物を摂取することにより、微量元素であるSrが骨や歯に取り込まれるので、古墳時代の人々の骨や歯を分析することで出身地が推定できるのです。



金井地域の水源「和尚沢」

■ Sr(ストロンチウム)同位体比分析とは何か

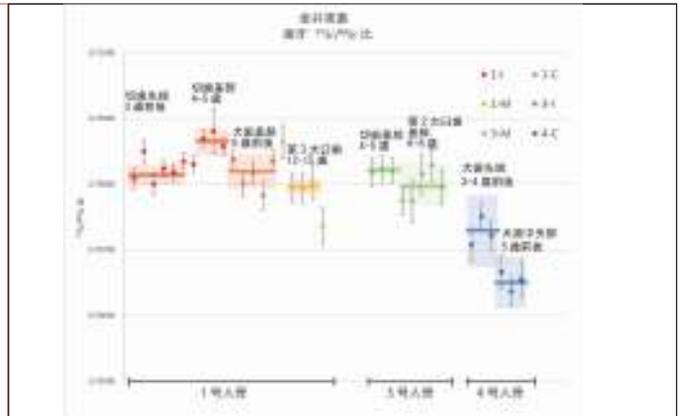
Srは同じ元素でも2つの異なる質量を持っており、その数値を比であらわすと、地域ごとに異なる値が出ることが知られています。東日本の地質は若い火山岩を起源としているのに対し、西日本では火山の深い場所で生成された深成岩起源の地質なので、分析の結果が異なるのです。



ストロンチウム同位体比分析の試料採取

■ どの部分を分析したのか

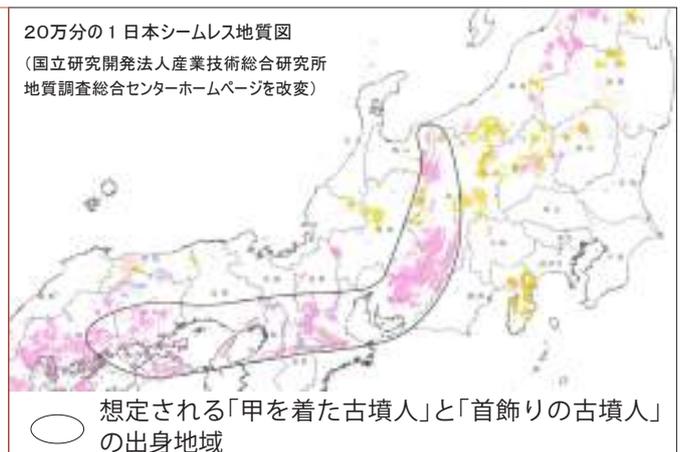
金井東裏遺跡の人骨では、歯の根元と先端部の2カ所を分析しました。その結果、「甲を着た古墳人」と「首飾りの古墳人」は同じ地域で3歳～15歳ごろまで生活していたことがわかりました。また、「幼児の古墳人」と「甲を着た古墳人」と「首飾りの古墳人」では数値が異なることもわかりました。



ストロンチウム同位体比分析の結果

■ 古墳人はどこから来たのか

日本の地質と照合すると、「甲を着た古墳人」と「首飾りの古墳人」は、長野県から岡山県周辺まで広がる地盤の分析値であったことから、群馬県より西の地域で生まれ育った可能性があり、大人になってから群馬に来たようです。一方、「幼児の古墳人」は群馬県内に見られる岩石に近い分析値が出たことから、金井東裏遺跡に近い場所で成長したことがわかりました。



想定される「甲を着た古墳人」と「首飾りの古墳人」の出身地域